

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		町内会員の2世帯として、今後も町内や近隣との日常のつながりを大切にし、認知症の方の暮らしと認知症のケアについて身近な所から見て知ってもらえる取組みを続けたい
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		運営推進会議において、近隣にも声を掛け、通常はホーム単独の避難訓練等を、合同で行う案が出された。新たな交流・緊急時の助け合い活動の始まりとして立案する予定
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		単独外出により短時間の行方不明になり、スタッフ総出捜索するケースが増えており、更に、交番や近隣への行方不明時の協力を要請する予定である

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	施設を開放するなどの取り組みは行っていない。運営推進会議に参加の包括支援センターさんへは、GHとして出来る活動があればいつでも応じたいと声を掛けている。また、不定期に、認知症の方についての勉強会・講義等を引き受けることがある		包括支援センターと協働していきたい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全てのスタッフが外部評価を受けることの大切さを理解している。毎回、事前に数回のミーティングを実施、自己評価については、項目ごとに各スタッフが担当し書き込み、新たな気づきや今後の取り組みに向け前向きな気持ちで書類作成等を行っている		年1回の外部評価は、日々のケアやスタッフの考え方を見直したり、新たなモノに気付く良いきっかけと、前向きな気持ちで臨みたい
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	参加メンバーも定着し、回を重ねるごとにぎこちなさがなくなっている。通常メンバーの他に、スタッフも交代で出席する。それにより、外部の風や声を直接感じ、聞き、発言できる機会になっていて研修の場にもなっている。メンバーそれぞれから質問・提案・相談が発せられ、充実した時間だと感じる		新年度は更に、包括支援センターへの協力や協働、近隣の今までとは異なる結びつきにむけた内容も充実させたい
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	何かがあれば担当者にすぐ相談出来る。市から相談員訪問を受け入れているが、まだ相互協力や質の向上につながっていない。市の行う講習会等で認知症に関するテーマがあれば、協力したいと申し出ている		市の相談員の受け入れ方全般について、入居者やスタッフにとってもプラスになるように見直す必要がある
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域権利擁護事業を利用して入居者がおり、関係機関とのつながりがあった。成年後見制度については自ら学習したり、研修への参加で学ぶ機会がある		勉強会を開催する予定である
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングや外部研修への参加を通して、心と身体・経済面の虐待について学んでいる。スタッフ間でも、ケアストレスや自身のケアに対するの自省について話すようにしており、管理者等もそれに気を配るようにしている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>利用者や家族等と複数回の面接や話し合いを行い、理解と納得を得られた上で、契約や解約を行っている</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の会話の中でのふとした言葉や表情から、利用者の不安や不満を吸い上げようと全スタッフで努力している。また、それらを生活全般の改善や新たなアイデアとして活かせるようにしている</p>	<p>今後も、ふとした言葉や行動のひとつひとつから、利用者の不安や不満、希望を受け止めていきたい</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月1回程度の利用者の個人記録の郵送・献立表・お小遣い明細書・その他のお便りで、離れて暮らす家族等がホームでの暮らしぶりがわかるようにしている。また、面会やケアカンファレンス時には、その日のスタッフが声をかけるようにしている。記念日などにはベストショットをアルバムにしてプレゼントしている</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>定期ケアカンファレンスや面会時、電話・FAX等で、気軽にコミュニケーションが取れるようにしている。市役所に苦情相談窓口がある</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月2回のミーティングや3ヵ月毎の合同ミーティング、管理者との面接などにおいて、スタッフの意見や新たな提案を発信できる</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者の重度化や状態変化に応じて、またはスタッフの体調変化に応じて、出来る限り臨機応変な対応を行っている。しかし、GHには常に柔軟な対応が可能なスタッフ数は配置できず、対応に苦慮することも多い</p>	<p>計画された行事を優先に、スタッフ配置を厚くするなどには出来ている。しかし、利用者の状況変化に即応すると、スタッフの負担が増す結果となり、現在のGH人員配置基準内では不十分と感じている</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>新スタッフが入る場合は、馴染みのスタッフが担当に付くなどし、入居者のダメージを防ぐようにしている</p>	<p>低賃金・認知症介護ストレスが原因の介護職離れで、熟練者や理解者を失う事のリスクはととも大きい。今後もリスクを最小限にする努力と工夫が必要である</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>福祉や認知症関連ではスタッフはそれぞれ、県・社協・GH協会等が開催する研修に参加し、研修報告や伝達研修を行っている。また、料理やガーデニング等に関する教室や講習会も好みのコースを選び参加すること出来る。ホーム内においてはアドバイザーが中心となり全スタッフ対象の研修会を行っている</p>	<p>福祉や認知症関係の研修会だけでなく、生活を潤したり気分転換になる講習会参加を今後も続けていきたい</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>関連施設の特養から研修生の受け入れを行ったことがある。近隣同業者とのつながりや勉強会は昨年まではあったが現在は休止中。全国GH協会研修や全国大会への参加を通じ、他県GHの活動から学ぶ機会がある。隣市の家族会へ不定期に参加している</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>個人面談その他の機会においてスタッフは、アドバイザーや管理者に相談することが出来る。また、食事会等・スタッフ旅行が開催され、スタッフ間の交流がはかれるようになっている</p>	
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>スタッフの得手不得手を理解した上での研修会選びや、好みに応じて自己選択出来る教室など、スタッフ自らが自分の生活や仕事に活かしたいと思えるような支援をしている。また、全スタッフの協力の下、初の産休育休実施と復帰が叶い、女性が働き続けられる職場作りを行っている。資格取得にむけ勉強するスタッフが多い</p>	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前の面接で、本人の希望と思いを十分に聴いた上で、ホームに出来ること出来ないことをわかりやすく説明し、納得を得た上で契約する。また、前例がないことであっても、工夫次第で新たな希望に応えられる場合は、スタッフ間で検討することもある</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前の面接や相談で、家族等が困っていることや躊躇していること、寂しさ、ホームに対する希望や思いを十分に聴いた上で、出来ることと出来ないこと・協力してほしいこと等を説明し理解を求め、また、些細なことでも気軽に話して欲しいとお願いする</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際には、その時何を必要としているのか判断し、支援機関・その方法についてアドバイスする。GH以外のサービスが必要と判断した場合は、他サービスを紹介するなどの対応を行っている		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	住み替えについては本人や介護者の状態に応じて、生活地とホームを行き来するショートステイの様な利用方法や、週末の定期外泊など、ケースバイケースで受け入れている		本人の症状の変化等により、短期に生活環境を変えることがメリットにもデメリットにもなるが、その時々で相談しながら、個別対応を続けていきたい
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	スタッフは利用者の体調や気分を観察しながら、日常の家事・散歩・買い物・庭仕事を共に行っている。利用者の力や知識を発揮してもらう場面や、スタッフの相談にのってもらうことなど、一緒に暮らしている者同士という関係を感じることもある		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族と利用者とは常に繋がり、互いに関係しあっている。日常生活の場にはいない家族へは毎月個人記録等を送付し、離れていても日々の様子が時系列にわかるようにしている。また、外食・外出・外泊などを勧め、ホーム外で家族で過ごす時間をもってもらおうようにしている		全家族、毎回ケアカンファレンスへ出席される。今後も個人記録作成と送付・ケアカンファレンス家族参加が続くような関係を築きたい
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	それぞれの家族の介護力や利用者の思いを理解し、個別に支援している。また、ホーム側でも提供できるが、家族が続けていける本人へのサービスはあえて提供せず見守っている		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人(家族・友人等)の面会を歓迎し、外食・外出・外泊なども勧めている		馴染みの友人や家族の訪問が途切れない。いつでも誰でも面会に訪れやすい雰囲気作りと、スタッフの笑顔、居室等でゆっくり寛げる時間の提供を続けたい
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	スタッフが橋渡し役となったり、自然に出来る友人関係があったり、体調不良や身体の不自由な利用者を他者が気遣うなど、ユニット内またはユニット間で利用者同士の関わりがある		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	これまで退居後に継続的な関わりが必要になったケースは少ない。但し、入院のための退居の場合、病院への面会や、その後の方向性を相談するなどしている。また、退居された方の家族から、近況報告が届くこともある		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話やふとした言葉から、思いや希望を聞きだすようにしている。また、ケアカンファレンスや面会時に家族から情報を得て、本人にとっての居心地の良い暮らしはなにかを検討している		ケアプランにおいて、ポジティブプランとして「やりたいこと」を位置づけているが、重度化や介護量増が前面に出てくると、本人の思いや希望の優先順位が低くなりがちである。更にスタッフの勉強が必要だと感じる
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面接やケアカンファレンス、日常の会話、関係者からの情報などから、生活歴・馴染みの暮らし方・生活環境を把握している		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	スタッフは、日誌・ケアプラン・連絡ノート・診療記録・掲示物・その他の連絡に目を通し、スタッフ間申し送りを受け、利用者それぞれの現状や注意点を、勤務のたびに確認し把握するようにしている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	個人記録・日誌などの記録を続け、これまでの流れや変化を元に現状を把握し、本人の思いを聞きながら、家族・スタッフでケアカンファレンスを実施。その際の意見やアイデアを土台にミニケアカンを経て介護計画を作成し家族に送付し同意を得ている		今後、センター方式の一部導入を考えている
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居後3ヵ月以内に初回・その後は6ヵ月毎に定期ケアカンを実施。その他見直しが必要な場合は、随時ケアカンを実施。全ての家族がケアカンファレンスに参加されている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録・行事等での様子の記録・写真記録を続けており、スタッフは、日誌・ケアプラン・連絡ノート・診療記録・掲示物・その他の連絡に目を通し、スタッフ間申し送りを受け、利用者それぞれの現状や注意点を、勤務のたびに確認し把握するようにしている		記録者には、客観的に事実を正確に簡潔に記入する事を徹底している。今後も記録の書き方や情報の共有の大切さと効率的な申し送りの実践を促したい
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や介護者の状態に応じて、生活地とホームを行き来するショートステイの様な利用方法や、週末の定期外泊など、ケースバイケースで支援している。その後の症状変化や介護力変化に沿って、月毎に利用日数があるケースもある		本人の症状の変化等により、短期に生活環境を変えることがメリットにもデメリットにもなるが、その時々で相談しながら、個別対応を続けていきたい
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	演奏ボランティア、大学生ボランティア、実習生などを受け入れ、入居者にとっても新鮮な楽しみになっている。また、市消防署の協力により、ホームでの総合防災訓練を実施し、全入居者が参加している		新たなボランティアの参加を呼びかける予定
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在、地域の他サービス事業者との話し合いや利用は行っていないが、以前、医療保険によるデイケア利用を併用し、各々の施設の利点を活用していた方もあった		今後必要に応じて、他事業者と協働を考える
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議において地域包括支援センターへ、GHの特徴を生かした協力や協働を提案している		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にかかりつけ医の説明を行い、納得を得た上で受診している。本人・家族希望により、昔からのかかりつけ医の受診を継続している方もある		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>かかりつけ医にGHに対する理解があり、症状変化や急な体調変化をすぐに相談出来る。外来受診の他、緊急時や夜間等は往診がある。かかりつけ医から専門医への相談や紹介もある</p>		
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>協力医療機関所属の看護師が、往診時や処置時に医師に同行あるいは訪問の場合がある。介護職やGH内で出来るケア方法や観察方法の指導も受けられ心強い</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院時は情報提供を速やかに行い、入院中は面会し関係者との情報交換を行っている</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>本人や家族の意向に出来るだけ添えるように、早い段階から話し合いや意思の確認を繰り返すようにしている。終末期の場合、医師と家族の話し合いは短期間に何度も行われ、最期の時をどこでどのように迎えるかを決定する。重度化の場合は、どこで暮らす事が本人や本人を支える人々にとって幸せなのかの決断に苦慮するが、退居し入院や特養入所となった場合は、行き先の担当者とも話し合いを行っている</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>同時期に重度化した入居者が複数在籍した時は、スタッフの力にも早い段階で限界が見え、できないことが増えた。しかし、重度化したケースをケアした経験が重なる、「できること・できないこと」を予測したり決断することが出来るようになった。その時期のチーム力にも拠るが、比較的早い段階からかかりつけ医や協力施設と相談し、家族とも話し合いを重ねて準備を行っている</p>		<p>入居前と契約時には、どのような状態になったときにGHでのケアは困難となり退居となるか等を家族と本人に説明している。しかし、馴染の関係になっていくにつれ、ホーム側家族側の双方に、もう少し出来るかもしれない・最期までここでという思いが出てくる。今後も家族の思いを受け止めながら、入居後も状態の変化に応じて早い段階から、医師を含めて話し合いを重ねていく必要性を感じる</p>
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>入居の際には、出来る限りの情報収集を行い、ケアマネや家族等によりよいアドバイスを求めるようにしている。また入居後は不安な気持ちを受け止め、混乱や悲しい気持ちに寄り添うようにしている。退居の場合は、退居先で適切なケアが継続して受けられるように、出来る限りの情報提供を行うと共に、担当者との事前打ち合わせを行っている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>それぞれの症状を把握し、言葉や思いを受け止め、スタッフは否定的な言動で本人の誇りや思いを傷つけぬよう十分に注意している。また、記録等は客観的表現・事実の記載を心がけ、イニシャル使用やコピー・持ち出しの禁止等を徹底している</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>言葉などで意思表示しにくい入居者に対しては、表情・ジェスチャーなどから意思を読み取るように努めている。また、それぞれの力に応じて、問いかけ内容を解かりやすく短くしたり、選択肢を多くしたり、馴染みのスタッフが関わったりするなどし、自己決定の機会をなるべく多く持てるように支援している</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>食事時間は決まっているが、気分や体調によって取り置きや居室での食事の場合もある。その他の日課はそれぞれの好みや気分と異なり、スタッフもそれに沿って支援している。家事参加や居室の片付け、スタッフの手伝いや屋外への同行、学習ドリルを解く、新聞を読む、テレビを観るなど気ままな時間を過ごしている</p>	
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>化粧品の用意があり、好みや習慣によってあるいはスタッフの勧めによって使っている。また、外出時は相談しながらおしゃれを楽しんでいる。理美容室は近隣の協力ある店舗に出掛けたり、家族との外出外泊時に家族が行ったり馴染み店を利用するなどさまざまである</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>家事好きな方、何か役に立ちたいと思っている方、スタッフが側にいれば手伝いができる方など様々であり、持っている力に応じて、野菜のカット・盛り付け・テーブルセッティング・後片付け・洗い物などを単独またはスタッフと共に行っている</p>	<p>目で、音で、味わって美味しい食事作りを続けていきたい 好きなものを選択できるブッフェ方式のメニューを少し増やしたい</p>
55	<p>本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>本人の嗜好をあらかじめ把握し、それに合わせた飲料やおやつを提供することが多い。家族よりそれぞれの好みの食品や嗜好品を預かり提供することもある。居室内での晩酌やつまみの用意を楽しんでいた入居者もいた。1日3回のティータイムでは、1日の栄養価や前後の食事内容を考慮しながら、飲料の種類や提供方法を工夫したり、好みの物を用意する</p>	<p>随時、入居者と共に行きおやつを楽しんでおり、スタッフは季節のおやつ作りを学んでいる。全て手作りの余裕はないが、既存品・手作りおやつメリハリをつけ、これからも入居者・スタッフの楽しみのひとつにしていきたい</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	定時誘導や声掛けの他、それぞれの排泄パターンや食事と体調との関係も考慮しながら、適宜支援している。また、気候や水分摂取量・運動量にも気を配るようにし、必要な場合は水分摂取量チェックを行う		症状変化によって排泄パターンが変化する。スタッフ全員がそのリズムを把握し変化にも出来るだけ即応し、気持ちよく排泄できるケア方法を実践していきたい
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	好みの入浴時間がある場合は準備し声がけ、何らから支援が必要な場合はタイミングを見計らって声掛けや誘導を行う。体調不良で入浴が出来ない場合には、清拭を実施		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	それぞれの睡眠リズムや日中の休息の必要性に応じて、見守りや声掛けを行っている。夜間巡回時に居室のTVを消したり消灯、温度調整を行い、気持ちよく眠れるように工夫している。夜間不眠時は、夜勤者と会話やお茶をするなどし、出来るだけ再就床できるように支援している		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人・家族からの情報や日常の会話内容を活かし、ホーム内外でのそれぞれの役割・楽しみごと・気分転換方法などを考え、症状変化に応じた支援を行っている		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いはホーム側で管理しているものとは別に、持つ力に応じて所持しており、外出時に好みの買い物をしている		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日頃から、行きたい所・見たいものなどを聞き出すようにしており、外出計画に活かしている。また、特段の希望がない場合でも、ベランダでの日光浴・庭の散策・散歩や買い物に誘い、戸外で過ごす時間を設けるように工夫している		冬季は戸外で過ごす時間が少なかった。これからの季節は機会を増やしたい。戸外でのイベントも計画予定である
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	入居者の行きたい所・見たいものなどのリクエストにも応じ、季節ごとに楽しめる外出や・外泊を計画実施している。また、家族との外食外出外泊を歓迎している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族等と手紙のやりとりをしている方もいる。届いた手紙の読み上げや口頭での返事を家族に伝言するなどしている。今後、携帯電話の利用を希望している方もいる		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族・友人等の訪問や外出等を歓迎している。訪問があった場合は、ゆったりと過ごせるように、湯茶のおもてなし以外の居室出入りは極力行わない。また希望があれば、食事予約も可能である		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束とは何を意味するのかを全スタッフが理解しており、身体拘束を行わないケア実践を約束している		研修参加や新スタッフへの研修を継続していく
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	安全確保のため玄関・勝手口・非常口等を施錠している。開所以来、不審者の侵入による被害等がホームにも町内にも続いており、警察への届出も行った。しかし、玄関からは比較的簡単に自ら開錠して単独外出することができるため、行方不明時はそのつど捜索を行っている		ホーム側あるいは家族側から見ると、防犯と入居者の自由な単独出入り確保の環境作りの両立に苦慮する。しかし、入居者にとっては施錠は「その先に行けない」というストレスを感じると思う。今後もいくつかを試行しながら、入居者のストレスが最少になる工夫を見つきたい
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	居室のドアは掃除以外は閉めており、入室時はロックをルールとしており、プライベート空間としている。弐号館と弐号館の行き来は自由に出来るため、入居者の移動も昼夜通して日常的にあり、両ユニットスタッフで所在確認を行うことが多い。夜間は定時巡回		終日館内を自由に歩き続ける入居者の所在確認が出来ない時があり、気づくと単独外出や他ユニットでの所在を発見したり、他者の居室への入室や他者私物の持ち歩き、備品や衛生用品収集など様々である。入居者の所在確認と安全確保についての配慮は毎日の課題である
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意が必要な物品は、鍵のかかる倉庫等へ保管することになっている。その他、1人ひとりの状態に応じて、物品の随時提供や自由使用としている		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	入居者ごとの病状や出来ること出来ないことを見極め、歩行や移動移乗時のケア方法を変えている。また、咀嚼・嚥下・直近の睡眠状態を把握し、食事形態を工夫する。服薬支援については誤薬防止のためスタッフのダブルチェックを実施。自ら開錠する単独外出者の所在の確認出来ず、時折付近をスタッフ総出で捜索し発見することがある。		単独外出する利用者の 所在確認をまめに行う 警察・近隣への協力を事前に呼びかける 手荷物に連絡先を記した用紙を入れる 残る入居者のケアに十分注意する

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	スタッフは消防署で開催される普通救命講習を受講しているが、年1回の自主的な更新講習受講までには至っていない		新年度は全スタッフが更新講習を受けるようにしたい。また、消防署に相談し、ホーム内でのミニ講習会を依頼したい
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に消防署立合いの総合訓練を、スタッフ・入居者参加で行っている。緊急連絡網もあり訓練を行っている。災害用備蓄品がある		運営推進会議において、ホームと近隣が災害時に協力できることを考えてみたいという提案があった。現在、具体的な方法を計画中である
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	症状の変化や予期せぬ病気や事故の可能性について、入居前から家族等に説明している。入居後はケアカンや面会時に随時報告や相談をしながら、本人にとっての良い環境作り、出来ること・やりたいと思っていることを活かせる生活を考えている		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタル測定、入居者本人からの訴えを聞き逃さず、いつもと何かが違うというスタッフの観察力や気付きに基づき、スタッフ間の申し送りや継続観察を行う。その情報を共有し、必要に応じて速やかにかかりつけ医へ報告する		観察記録などのデータは医師への連絡相談時に重要である。「いつもとどこかが違う」ということに気付ける観察力を、全スタッフが身に付け、判断に迷う時は、スタッフ同士がすぐに相談出来る体制を維持していきたい
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋ファイルや診療記録に目を通し、処方変更にも注意し、服薬支援を行っている。また、誤薬防止のため、服薬の支援前後には、声掛け確認などダブルチェックを行っている		誤薬防止の取り組みの継続を行う
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事以外にも、10時15時就寝前にティータイムを設け、水分摂取は特に重視している。また、繊維質の多い食材・便通に良いとされる食品を多く取り入れている		冬季は戸外で過ごす時間が少なかった。これからの季節は機会を増やし身体を動かすことを勧めたい。また、屋内でも、掃除・洗濯物干し・食事の支度・アクティビティーを行うことで、自然に身体を動かす工夫を続けたい
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアを行っている。就寝前には義歯を洗浄し口腔内の清浄を保つようにしている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食欲が無い時は無理にすすめず、なるべく美味しく食べてもらうことと、1日に必要な水分量が取れる様に、それぞれに合った声掛けを行っている。食事が減っている場合には、医師の指示による高カロリー食品を併用したり、好みの味を選べるゼリー飲料、好きな物をすすめ、栄養不足や水分不足に注意している		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザ予防接種は任意ながら、全入居者と全スタッフが受けている。スタッフは手洗いうがいを義務付けている。入居者も外から帰った際には必ず手洗いうがいの支援を受けている。処置用・介護用のディスポ手袋の用意がある。日中の清掃に加え、夜勤帯において、手すりやドアノブ等の消毒清掃を行っている		全スタッフ対象に感染症予防研修をホーム内で実施し、意識付けを高めるようにしている。今後も感染症予防マニュアルの見直しを含め、研修を続けていく
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具は塩素系漂白剤での消毒・除菌を毎日実施。食材を選ぶ際には、新鮮であることや国産品・地産地消を優先している。調理スタッフはディスポペーパーナプキンを使用するようになった		研修参加を機に、新たに冷蔵庫の取っ手の除菌・消毒の徹底、卵殻に触れた後の手洗いの徹底が加わった。ケアや作業変更時は必ず手洗いをを行い、特に食材管理や調理時には都度手洗い実施を続けていく
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りには季節の花々を置いたり、ウェルカムボードを飾るなど、訪問者にも楽しんでもらえるようにしている。踊り場にはイベント時の写真を掲示し、家族や入居者に楽しんでもらっている。館内の装飾は季節ごとに変えている		できるだけ「施設」を連想するような調度品や備品を置かないように心がけている。季節感を大切にエントランス作りを続けていきたい
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明の照度やBGMのボリュームに配慮している。トイレは食堂やリビングから直接見えない場所に配置しプライバシーに配慮。調理中は音や匂いや盛り付けなどを直接見ることが出来、生活感がある		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間においては思い思いの場所で(ソファ・ダイニング・和室・他のユニット)寛いでいる。自室と共用空間を使い分けている入居者が多い		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は思い出の品や使いなれた家具を持ち込み、好みの環境を整えることが出来、本人が落ちつける場所となっている。内鍵を利用したり開けたままだったり様々である。季節毎に家族と共に模様替えや衣類の入れ替えをする場合もある。また、気の合う人と居室内で語らう姿もみられる		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気に努め、気持ちよく暮らせるよう、日中夜間の温度調節をこまめに行っている。エアコン・床暖房を使い分け、衣類調節も併用しながら適温調整している		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ・浴室には手すりを設置。階段は段差を少なくし手すりをつけ、途中に踊り場を設けている。出来るところは自立を促し、見守りで安全な場合は、できるだけ手を出さないようなケアを行っている		身体機能の低下による身体介護頻度が高まることがある。スタッフは認知症介護についてのみならず、ボディメカニクスを熟知した身体介護法や、福祉機器の使用法、補助用具を利用法などを随時学びあう必要がある。研修参加を計画すると共に、研修参加者の伝達講習会の開催を行っていく予定である
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	もっている力に合わせて声掛けやケアの方法を変え、たとえ時間がかかっても、スタッフは「待つことのできるケア」を目標にしている。混乱や失敗があった場合は興奮や不安な気持ちを受けとめ、原因はなにか考え、次のケアに活かすようにしている		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭では畑を作り、野菜や果物を育てている。入居者は庭の散策や野菜の収穫を楽しんだり、ベンチで日光浴やティータイムを楽しんでいる。弐号館のベランダでは、入居者が鉢植えを育てたり、洗濯物や布団干しをしている。また中庭では季節ごとにBBQや外ご飯を楽しむ機会がある		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・入居者同士の関係や、つながり・助け合いの気持ちを大切にしている
- ・入居者ひとり一人のペースと価値観を大切にしながら、他者やスタッフと共に過ごす時間の中に、「快適さ」「安心」「楽しみ」「生きがい」を感じて頂けるように取り組んでいる
- ・家事、買物、庭仕事などを通して、利用者の持っている力や知恵を発揮できるように努めている
- ・ホーム全体として食事やティータイムを特に大切にしている。スタッフは研修や勉強会に参加し、それを日常生活や行事などに活かしている